## スペクトラム・オブ・ザ・シーズの香港発着日本・フィリピンクルーズ(その 3)

事務局長　池田良穂

沖縄を出港した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」は、一路南下して台湾沖を通過してフィリピンの北部のイロコスに向かいました。着いたのは小さな漁村ですが、クルーズ客船用の桟橋が 1 本だけ海に突き出していて、その根元に小さなターミナルの建物もありました。しかし、大型船は着岸できないようで、17 万総トンの本船は沖止めで救命艇でのテンダーサービスとなりました。救命艇は 1 隻に 160 人が乗船でき、8 隻でピストン輸送するので、そう時間はかからないという船側の説明でした。

7 時半に最初のテンダーボートが岸に向かい、8 時からは本格的なテンダーサービスが始りました。先にラウンジのひとつで整理券をもらい、番号が呼ばれるとギャングウェイに向かうようになっていました。筆者が 9 時過ぎに上陸しようとすると、ボートの待ち時間はなくなっており、すぐにボートに乗船できました。

上陸してみるとターミナルは本当に小さな建物で中には港の歴史を示す写真パネルが展示されており、かつては砂糖キビの積出をする港だったことがわかりました。両替所や案内所は建物の外の広場に面してあり、さらに広場の一角には現地の人のだす土産物の屋台が並んでおり、ショアエクスカーション用のバスが 8 台ほど待機していました。また広場の外にはタクシーや輪タクもいましたが、料金もドライバーとの交渉次第のようでした。まわりには店もレストランもなかったので、海岸に沿って散歩して、沖合に停泊する「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の姿をカメラに収めてからすぐに帰船しました。

翌日の寄港地のスービックベイ港は、元米軍の基地として栄えた町です。観光バスが 30 台ほど並んでおり、旧米軍の訓練施設を民間のテーマパークにしたところで遊ぶオプショナルツアー等を実施しているようでした。また港の近くにはレストラン、ショッピングモール、カジノなどもあり、上陸した乗客は、多少はお金を落としているようでした。ただ、多くの乗客が早々に船に戻り、昼食も船上で食べ、プールなどで遊んでいました。

このように今回のクルーズで寄港したフィリピンの 2 港は、クルーズ客船の受け入れ態勢はまだまだ未整備の状態で、オプショナルツアー以外の地元への経済効果は限定的なようでした。これからどうお金が落ちる観光資源開発ができるかにかかっているように思います。筆者も、港で 1 万円だけ両替をしたのですが、結局一銭も使わずに船に戻ってしまい、両替したペソは船内で世話になったフィリピン人船員さんへのチップにしました。

スービックベイ港を夕方に出港した「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」は、一路、香港を目指して北上しましたが、最後の終日航海日は海は大荒れ。船内見学ツアー時にブリッジで確認したところ、風速は約 21m/s で、船員によると風波は 3m くらいの波高だが、南海上を東に向かっている台風 29 号からのうねりも入って船が揺れているとのことでした。階段には嘔吐袋も用意され、船酔いしている乗客もいるようでした。17 万総トンの船でも揺れることはあるのだと再確認させられました。

今回のクルーズ乗船の目的の一つに、クルーズ客船の環境影響の調査があり、船内見学ツアーで船内のごみ処理の現場を見ることでした。キャビンではごみの分別はされていませんが、収集された後で乗組員によって分別され、資源ごみは港で売却されているとのことでした。もちろん、汚れた水も、ブラックウォーターとグレーウォーターの２つに配管が分かれており、それぞれ高度処理されてから排出されています。以前、「オアシス」に乗船した時のキャプテントークで、「ブラックウォーター(トイレ等の汚水)も完全に浄化されているので飲めますよ」という説明に、「それはいや!!」という反応があったことを思い出しました。

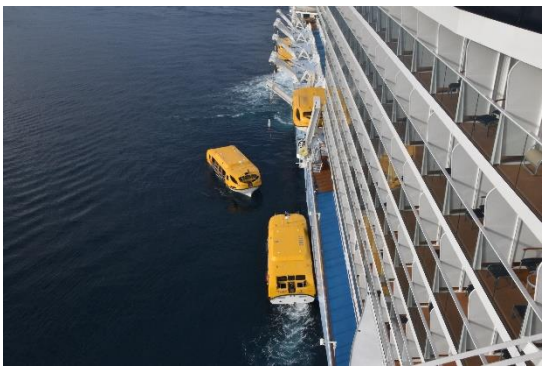
最後の夕食後のショーは華やかなものと期待をしていたのですが、船の揺れのために中止となり、シアターでは映画が上映されていました。

最終日、まだ暗い中、香港のカイタック・クルーズターミナルに着岸しました。1週間前に出港した時と全く同じように、近くに２隻のカジノ船がブイ泊し、「ワールド・ドリーム」も戻ってきて、隣に着岸しました。

香港では入国審査もなく、荷物もスムースに受け取れて、1週間のクルーズを終わりました。「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」は、夕方には４日間のベトナムクルーズに出港し、その後は、また７日間の沖縄・フィリピンクルーズをするとのことでした。

沖縄からイロコスまでの終日航海日の昼食に、アジア料理の「いずみ」で握りのセットを頼みました。この量で一人前!! びっくりです。

船内の有料の飲食ショップには、日本の飲物が並んでいました。日本の食材は安全ということで中国人乗客には好評なのでそうです。日本の薬と化粧品だれを売るショップもありました。そこの正面には「龍角散」がたくさん並んでいました。



イロコスでは沖止めで、本船の救命ボートによるテンダーサービスが行われました。入管も船上での書類審査だけで終わり、対面審査はありませんでした。4900 人近い乗客ですが、テンダーサービスでも意外に迅速に上陸ができました。

テンダーは桟橋の付根に設置された浮桟橋に着きました。

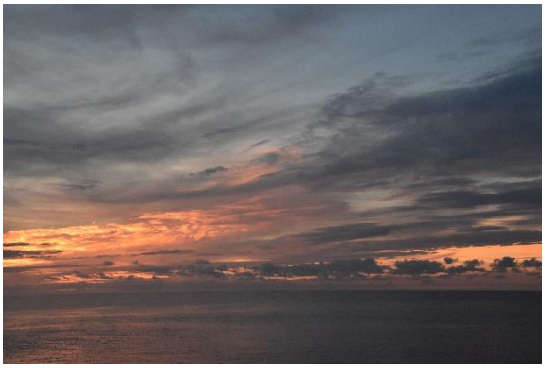
小さなクルーズターミナルの前では、子供たちのバンドが歓迎の音楽で迎えてくれました。バスの駐車場もこの台数で一杯という小さなもので、まわりに地元民の露天の土産屋がでていました。

海岸線に沿って散歩をしていると、沖合で錨泊している「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の姿が見えました。

「スペクトラム・オブ・ザ・シーズ」の顔写真もカメラに収めることができました。

フィリピンの典型的な小型ボート「バンカーボート」です。

小さな村の随所にあるキリスト教の施設もクリスマスの飾り付けがしてありました。



美しい夕焼けの中、イロコスを後にしました。

夜のデッキ上で展望室ポーラースターが稼働していました。

スービックベイの港でもバンド音楽で熱烈歓迎でした。

スービック湾に入ると造船所のガントリークレーンが見えました。こんな大きな造船所があるとは知りませんでした。

着岸した岸壁の隣には、米軍の高速輸送船らしき船が停泊していました。

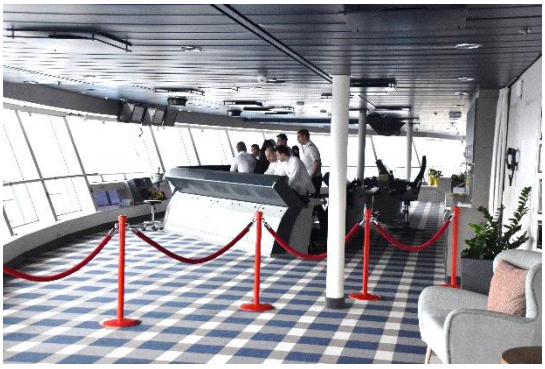
湾の中で軍の給油艦と反航しました。

船上から見た軍港の全景です。米軍の高速輸送船が左右に 2 隻停泊しており、フィリピン海軍のものらしき駆逐艦が全部で 3 隻停泊しているのが確認できました。

やってきたパイロットボートはとても小型のもので、上に立っているのがパイロットのようです。

着岸した岸壁は結構立派なもので、旧米軍施設だったようです。

スービックベイ港に上陸して記念写真を撮る乗客たち。



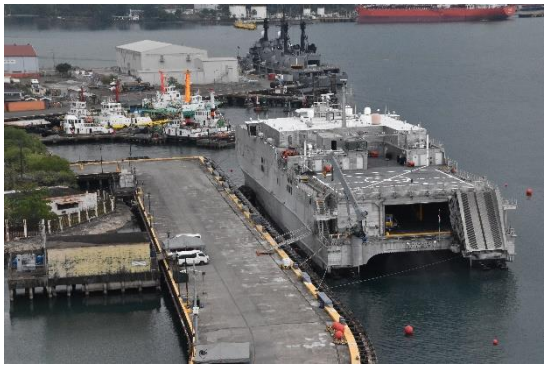
最終航海日に行われた船内ツアー。110 ドルもしますが、30 人以上が参加しました。

町を散歩していて出会った赤十字の水陸両用艇です。

ウィングの操船盤です。船員からの説明はなく、ツアーデスクの女性が船の性能の説明を英語と中国語でしていました。

港の一画に赤十字のマークをつけて RORO 型の船の姿もありました。

エンジンコントロールルームでは機関長から説明がありました。Safe Return to Port 規則を満足させるため、ディーゼル発電機は 2 機が別の区画に設置され、エンジンコートロールはブリッジでもできるようになっているので、推進機能の 2 重化ができているとのことでした。



US 海軍の高速輸送船と、2 隻の駆逐艦らしき船が見えました。

ごみはキャビン、公室、ギャレーなどから搬入され、資源別に分類され、資源ごみは寄港地で売却されるのだそうです。

缶類は圧縮されて蓄積されていました。

見学の最後はギャレーでした。

香港にはスタークルーズの「パイセーズ」が既に停泊していました。

「ワールド・ドリーム」が入港してきて、隣に着岸しました。